

テサロニケ前書序言

テサロニケのこと　マケドニア国はロマの支配のもとに四区に分けられていたが、テサロニケはその一区の首府で、テルマイクと呼ばれる入江いりえに接し、四通八達しつうはつたつの要地であるため最も富有的な都会であった。そのおびただしい人口の大多数はギリシア人であったが、ロマの植民もあり、ユデア人もまた多かつた。

テサロニケ教会とパウロとの関係　パウロは第二回伝道旅行中およそ紀元五二年のころ、聖靈の示しによってヨーロッパにおける布教に着手し、フィリッピに行ったが、使徒行録十七章一―十節に見られるように、進んでテサロニケに入り、まずユデア人の会堂で福音を告げたところ、小数のユデア人および、もと異教人でユデア教の信者となつた者たちが、おびただしくこれに帰依し、中には貴婦人も少なからずいて、ここに熱心な教会の成立を見るに至つたため、ユデア人らは、ねたましさに堪えられず、パウロが来てからわずか数週間後に騒動を起こして、ついにパウロを追い出すに至つた。

本書をしたためた機会および目的　パウロが追い出されたあと、激しい迫害が信者たちにも及んだので、パウロは再び彼らのもとに行つて、彼らを慰め励まそうとしたが、二度も妨げられたので最愛の弟子チモテオを遣わして信者を慰めさせたところ、チモテオはパウロのもとに帰つてテサロニケ教会のいろいろの消息を伝えたので、これが本書をしたためる機会となつた。チモテ

オの語るところによると、テサロニケの信者は迫害を受けたにもかかわらず確固として動くことがなく、信仰、相愛、および聖霊より賜わった恵みをもってマケドニア、アカヤの諸教会の模範となり、またパウロを厚く愛したので、パウロは非常に喜んで、これを祝し奨励しようと思つてこの書簡を送つた。しかしテサロニケ信者は新信者であるため、異邦人であつた時の悪徳、特に邪淫や貪欲などの弊風がないでもなかつたし、また教理の研究が不十分なためにキリストの再臨および来世についての異説が流行して教会内に紊^{びんらん}乱を生じ、信者の中にも自分の職業を怠る者があつたので、本書はまた、この悪弊を矯正し、世の終わりのことについても詳しく教えようとするとするところもあつた。

題目および区分 テサロニケ前書は教理的よりも、むしろ実用的で、パウロの私情の結果として送られたものであるから、事がらにおいて統一している点がないとはいふものの、段落は不明ではない。例の冒頭（一章一―十節）のち、二編に分かれ、第一編は経歴談で、パウロのテサロニケでの布教のありさま、およびそれ以後の事実をしるし（二章、三章）、第二編は実用的教理的勸告で、道徳およびキリスト再臨に関する教訓と倫理上の種々の勧めとをかかげる（四章、五章）。終わりに冒頭に相応する末文がある（五章二十三節以下）。なお詳細は目次について見ることに。

年代および場所 本書は聖パウロの残した書簡の中で一番目に書かれたもので、紀元五二年の末、あるいは五三年の初めにしたためられたであろう。場所はアデンスと思われる点もあるが、チモテオの歸つたあと、パウロがコリントにいたことが使徒行録八章五節に見えるので、おそらく、ここでしたためたものである。

使徒聖パウロ、テサロニケ人に送りし先の書簡

冒頭

1 **第一章** 挨拶 1 パウロ、シルヴァノ¹およびチモテオ²、神にてまします父および主イエズス・キリストにあるテサロニケ人の教会に「書簡を送る」。2 願わくは、恩寵と平安とを汝らに賜わらんことを。

感謝およびその理由 われらは常に汝ら一同のために神に感謝し奉り、祈祷のうち汝らを記念して、3 絶え間なくわが父にてまします神のみ前において、汝らの信仰の業^{わざ}と、愛の労苦と、わが主イエズス・キリストにおける希望の不退^{ふたいてん}なることを記憶す。4 神に愛せられ奉る兄弟たちよ、われらは汝らを選まれし次第を知れり。5 すなわち、われらの福音は汝らにおいてただ言葉のみに留まらず、能力および聖霊によりて全き確信³を得たりき、われらが汝らのうちにありて、汝らのためにいかなる者なりしかは汝らの知れるところのごとし。6 汝らもまた大いなる患難にありながら、聖霊の喜びをもって言葉を受けて、われらと主とを学ぶ者となり、7 マケドニア⁸「州」およびアカヤ⁸「州」におけるいっさいの信者の模範たるに至れり、8 けだし主の御言葉は汝らよりしてマケドニアおよびアカヤに響きしのみならず、神における汝らの信仰⁹「の風評」^{ふうひょう}いずこにも行きわたりたれば、われらは何ごとをも言うを要せず、9 すなわち彼ら自ら、われわ

れのことを語り、われらが汝らのうちに入りし次第、また汝らが偶像を去りて神に帰依し、生き給える誠の神に仕えまつり、¹⁰死者のうちより復活せしめ給いしその御子、すなわち来る怒りよりわれらを救い給いしイエズスの天よりくだり給うを待てる次第を吹聴するなり。

① シラのこと。使徒行録16・19、15・22 ② 使徒行録16・1、17・14、15、18・5 ③ ラテン訳では能力にも聖靈にも充満にも。

第一編 パウロがテサロニケ人のためになしし

こと、ならびに彼らのこれに応ぜし次第

第一項 テサロニケにおけるパウロの布教

第一章 テサロニケに至りし次第 1 兄弟たちよ、わが汝らのうちに入りしことのむなしからざ

りしは汝ら自らこれを知れり。2 すなわち汝らの知れるごとく、われらはかつてフィリッピにおいて苦しめられ、¹はずかしめを受けたりしも、わが神に信頼し奉りて種々の争いのうちに、あえて神の福音を汝らに述べたるなり。

4-3 布教の次第 3 けだし、われらの勧めは迷いにも汚れにも欺きにもよることなく、4 人の心を迎えんとするがごとくにせず、われらの心を認め給う神のみ旨にかなわんとて神より認められて福音を託せられ奉りしままに語る。5 またわれらがへつらいの言葉をかつて用いしことなきは汝らの知れるところにして、これを口実としてむさぼりしことなきは神の証し給うところなり。6 ま

7 たわれらは人に、すなわち汝らにも他人にも名誉を求めず、7 キリストの使徒として汝らに重んぜらるるを得たれども、汝らのうちにては子どものごとくになりて、あたかも乳母にゅうはがその子どもを愛育するごとくなりき。8 かく汝らを恋い慕いて汝らはわが至愛の者となりたれば、われらは神の福音のみならず生命いのちをも汝らに与えんことをせつに望みおれり。9 けだし兄弟たちよ、汝らはわれらの労苦を記憶せり、汝らの一人をもわずらわさざらんために、われらは昼夜労働して汝らのうちに神の福音を述べ伝えたり。10 われらがいかに聖にしてかつ正しくかつ、がなく信じたる汝らに対したるかは、汝らもこれを証し神もまたこれを証し給うところ、11 またわがいかに父の子どもにおけるごとく汝らのおのおのに向かいて、12 そのみ国と光栄とに汝らを召し給える神にふさわしく歩まんことを勧め、かつ奨励し、かつこいねがいしかは、汝らの知るところなり。

13 **テサロニケ人が布教に応せし次第** 13 ゆえにまた汝らが神の御言葉をわれらに聞きし時、これをもって人の言葉とせず、事実しかあるがごとく、信じたる汝らのうちに働き給う神の御言葉として受けしことを、絶えず神に感謝し奉るなり。

14 **迫害における忍耐** 14 けだし兄弟たちよ、汝らはユデアにおいてキリスト・イエズスにある神の諸教会の例に従える者となれり、そは彼らがユデア人より受けしとき苦しみを、汝らも同邦人より受けられたればなり。15 ユデア人は主イエズスをも予言者たちをも殺し、またわれらを迫害したるに、なお神のみ心になわす、衆人に敵対し、16 われらが異邦人に救いを得させんとて語ることを拒み、かくのごとくにして常におのが罪を満たす、されど神の御怒りは彼らの上に及びて、その極きよくに至れり。

第二項 パウロがテサロニケを離れし以後の事実

17 パウロがテサロニケに至らんとする望み 17 兄弟たちよ、われらは外見上しばし汝らを離れし
 18 も心は離れず、ひとしお早く汝らの顔を見んことを切望せり。18 すなわち、われらは汝らに至ら
 19 んとし、ことにわれパウロは^{ひと}一たびも二たびもしかしたれど、サタン^{*}はわれらを妨げたり。19 け
 だしわれらの希望、あるいは喜び、あるいは誇るべき冠^{かんむり}は何ぞ、わが主イエズス・キリストの降
 20 臨の時、み前において汝らも⁶それなるにあらずや、20 そは汝らは実にわれらの光栄にして、かつ
 喜びなればなり。

① 使徒行録16・12 ② ラテン訳では、おもんばかり。③ ラテン訳では汝らをわずらわす。④ ラテン訳では、けだし。
 ⑤ ラテン訳では光栄の冠。⑥ ラテン訳では汝らは。

第二章

1 至るを得ずしてチモテオを遣わせり 1 このゆえに、もはや堪え得ずして、われらのみ
 2 アデンスに留まるをよしとし、2 われらの兄弟にしてキリストの福音における神の役者たるチモ
 3 テオを汝らに遣わせり。これ信仰につきて汝らを堅固ならしめ、かつ奨励し、3 かかる患難のう
 4 ちにありて一人だも動かされざらしめんためなり、そはわれらが患難に定められたることは汝ら
 4 の自ら知るところ、4 けだし汝らのうちにありし時も、われらが必ず患難に会うべきを、あらか
 5 じめ汝らに告げいたりしが、はたしてかくなり来れるは汝らの知るところなり。5 このゆえに、
 われはもはや堪え得ずして、汝らの信仰のいかんを知らんために人を遣わせり、そは、あるいは

いざなう者¹の汝らをいざないて、われらが働きのむなしくならんことを恐れなければなり。

6 **チモテオの持ち帰りし音信**^{おとすれ} 6 しかるにチモテオ汝らのもとよりわれらがもとに來りて、汝ら

の信仰と愛との喜ばしき音信^{おとすれ}を伝え、また汝らが常にわれらにつきて良き記憶を保ち、われらを見んことを望めるは、あたかもわれらが汝らを見んことを望めるに等しとの福音を告げられたば²、

7 これによりて兄弟たちよ、われらはもろもろの悩みと困難とのうちにありながら、汝らにつきて

8 ³て汝らの信仰をもって慰めを得たり。8 すなわち汝らだに主において立たば、われらは今生き返

9 なるなり。9 けだしわが神のみ前において汝らにつきて⁴、われらの喜べるいっさいの喜びは、いか

10 なる感謝をもってか汝らのために神に報い奉るを得べき。10 われらは汝らの顔を見んことと、汝

らの信仰の欠けたるところを補わんこととを、昼夜せつに祈りおるなり。

11 **パウロの祈禱** 11 願わくは、わが父にてまします神御自ら、またわが主イエズス・キリスト、

12 われらを導きて汝らに至らしめ給わんことを。12 願わくは相互の間においても、また衆人に対

しても、汝らの愛を増し、かつ豊かならしめ給わんことを。われらが汝らに対するもまたかくの

13 ごとし。13 これ汝らの心を聖徳に固め、わが主イエズス・キリスト、その諸聖人とともに來り給

わん時、わが父にてまします神のみ前にとがむべきところなからしめんためなり、アメン。

① 悪魔の意。② ラテン訳では、ことを告げられたば。③ ラテン訳では、において。④ ラテン訳では、のために。

第二編 定理的教訓ならびに倫理上の勧告

第一項 道德に関する勸告

第四章

緒言

1 さて兄弟たちよ、われらは主イエズスによりて汝らに求め、かつこいねがう、
 いかにか歩まば神のみ心にかなうべきかは汝らがかつてわれらより聞きたるところなれば、そのと
 2 とくに歩みてますます進まんことを。2 そは主イエズスをもつて、いかなる教訓をわが汝らに与
 えしかは汝らこれを知ればなり。

3 聖とならんことを努むべし 3 けだし神のみ旨は汝らの聖たらんことにあり、すなわち汝ら自
 5-4 ら私通を禁じ、4 おのおの神を知らざる異邦人のごとく情欲の望みに任せずして、5 その器を神
 6 聖にかつ尊く保つことを知り、6 また、たれもこのことにつきて兄弟を欺かず、かつ害せざるに
 7 つ証したるがごとし。7 けだし神がわれらを召し給いしは、不潔のためにあらずして聖たらしめ
 8 んためなり。8 ゆえにこれらのことを軽んずる人は、人を軽んずるにあらず、われらの身にその
 聖霊をも賜いたる神を軽んじ奉るなり。

9 兄弟的愛につきては、われらが汝らに書き送るを要せず、そは汝ら自らかつて相愛す
 10 ることを神より学びたればなり。10 けだしマケドニア一般にすべての兄弟に対して汝らすでにこ
 11 れをなせり。されど兄弟たちよ、われらは汝らますます豊かにして、11 汝らに命ぜしごとく努
 めて、落ち着きておのが業を営み、手業をなし、また外の人々に対して正しく歩み、人の何もの

をも望まざらんことを願うなり。

第二項 キリスト再臨に関する教訓

12 死者につきて憂うるに及ばず 12 兄弟たちよ、永眠せる人々につきては汝らが希望なき他の人
13 人のごとく嘆かざらんために汝らの知らざるを好まず、13 けだしわれら、もしイエズスの死し給
い、かつ復活し給いしことを信せば、また神が永眠せし人々をイエズスにおいて、これとともに
携え給わん「ことを信すべきなり」。

14 再臨のありさま 14 すなわちわれら主の御言葉によりて汝らに告ぐ、主の再臨の時に生き残る
15 われらは永眠せし人々に先立つことなかるべし。15 けだし号令、大天使の声、神のラッパを合図
16 に、主自ら天よりくだり給い、キリストにある死者まず復活すべし、16 次に生き残るわれらは彼
17 らとともに雲に取り上げられて空中にキリストを迎え、かくていつも主とともにあるべし。17 さ
れば汝ら、これらの言葉をもって相慰めよ。

① 身体の意。② 色情の意。③ ギリシア文では、これから以下を十二節とし、次節は順に繰り下げられる。④ あるいは他人の世話を要せざらんこと。

2-1 第五章

再臨の時代

1 兄弟たちよ、時代と時刻とにつきては汝ら書き送らるるを要せず、2 そ

3 は主の日が夜中の盗人のごとくに来るべきことを自ら確かに知ればなり。3 人々が安心安全を口
にせん時、妊婦にんぶにおける陣痛のごとく、にわかに来りて彼らはこれをのがれざるべし。

4 信徒は**警醒**すべし 4 兄弟たちよ、汝らは暗闇にあらざれば、かの日は**盗人**のごとく汝らを襲
 5 うまじ、5 そは汝らはみな光の子、**昼の子**にして、われらは夜のもの、暗闇のものにあらざれば
 7-6 なり。6 さればわれらは他の人々のごとく眠るべからず、しかも目覚めて**節制**すべし。7 けだし
 8 眠る人は夜中に眠り、酔う人は夜中に酔う、8 されど昼のものたるわれらは、**節制**して信仰と愛
 9 との**鎧**をつけ、**救霊**の希望をかぶとなすべし。9 そは神のわれらを置き給いしは、怒りに会わ
 10 しめんためにあらず、わが主イエズス・キリストによりて**救霊**を得させんためなればなり。10 さ
 てイエズス・キリストのわれらのために死し給いしは、われらをして覚むるも眠るも彼とともに
 11 生活せしめんためなり。11 ゆえに汝らすでになせるがごとく互いに慰めて互いに徳を立てしめよ。

第三項 倫理上の種々の勧告

12 教師に対する義務 12 兄弟たちよ、願わくは汝らのうちに働き、汝らを主においてつかさどり、
 13 かつ忠告する人々を知り、13 その業によりて最も厚くこれを愛せよ、**相互**に**和合せ**よ。
 14 **相互の義務** 14 兄弟たちよ、こいねがわくは落ち着かざる人々を戒め、**落胆**せる者を慰め、
 15 弱き者を助け、すべての人に**堪忍**せよ。15 たれも人に対して悪をもって悪に報いざることを心が
 17-16 け、**相互**にまたすべての人に対して、いつも良きことを追求せよ。16 常に喜べ、17 絶えず祈れ、
 18 何ごとにおいても感謝し奉れ。これ汝ら一同においてキリスト・イエズスによれる神のみ旨な
 21-20-19 18 ればなり。19 霊を消すことなかれ、20 予言を軽んずることなかれ、21 何ごとをもためして良きも

22 のを守れ。22 いっさいの悪の類たぐいより遠ざかれ。

末 文

23 パウロの志願 23 願わくは、平安の神御自ら汝らを全く聖ならしめ給いて、ことごとく汝らの精神、靈魂、身体を守り、わが主イエズス・キリストの再臨の時、とがむべきところなからしめ給わんことを。24 汝らを召し給いしものは真実にてましますば、このことをもなし給うべし。

26-25 信者に願うところ 25 兄弟たちよ、われらのために祈れ。26 聖なる接吻をもってすべての兄弟によるしく伝えよ。27 聖なるすべての兄弟にこの書簡を読み聞かせんことを、われは主によりて汝らにこいねがう。

28 祝しゆくとう 28 願わくは、わが主イエズス・キリストの恩寵、汝らとともにあらんことを、アメン。

① ラテン訳では彼らと。② 聖靈の燃やし給う愛の火をの意。③ ラテン訳では様子。